

遊歩道



第144号

令和3年9月20日発行

遊歩道は市のホームページ（大山公民館のページ）でご覧いただけます。

編集・発行

大山地区コミュニティ運営委員会／広報編集委員会

大山公民館 TEL・FAX 0287-37-6130

大山公民館展示会

定期利用団体及び講座受講者の作品を下記の期間展示します。ぜひ来館してご覧ください

- ◆ 期間 11月 6日(土)～11月 7日(日)
- ◆ 時間 午前9時～午後5時
- ◆ 場所 大山公民館

※大山地区の地域づくりのため、入室人数制限などコロナ感染防止対策が比較的容易に実施できるものとして開催するものです。

※新型コロナウイルス感染の状況によっては中止とすることがありますので、予めご了承願います。

座禅の体験とものづくり

〔おおやま体験塾移動教室〕



座禅の様子

夏休みに入った7月27日(火)に親子29名で大田原市の大雄寺と、なす風土記の丘に行ってきました。コロナ対策のためバス2台で座席に余裕をもって乗るようにしました。

午前中は大雄寺の本堂で坐禅の体験をしましたが、子どもたちは騒ぐことなく、静かに坐禅をしていて副住職からほめていただきました。

午後は、なす風土記の丘に移動し、古墳を見学して、缶バッジと拓本のしおりをつくりました。

夏休みの思い出になる一日になりました。

型染体験

〔悠々大学〕

悠々大学の授業の1つである「型染」を実施しました。28名の参加者を、コロナ対策のため、7月13日(火)と7月15日(木)の2回に分けて、行いました。

白い布バッグに好きな型紙を置き、そこに専用の糊をのせ、赤か青の好きな色で染めあげると柄が白く残り、乾くと素敵な自分だけのエコバッグが完成。

使い勝手の良い大きさで、お買い物にもお出かけにも便利な素敵なバッグです。



作業の様子

親子で木工工作を楽しみました〔青少年部会〕

8月1日(日)、大山コミュニティセンター(大山公民館)多目的ホールを会場に、青少年部会事業と大山小家庭教育支援事業共催で親子木工工作教室を開催しました。

親子30名が木工キットをノコギリ・トンカチ等の工具を使用して、協同作業でティッシュケース・ミニ本棚等完成させました。今回は新型コロナ禍の学習会でしたので、3密の防止対策を講じながら実施しました。

良き夏の思い出となりました。



今回のキットは少し難しかった?!



社会福祉協議会より

もったいないBOX



今年度4月より大山公民館内に設置させていただきました「もったいないBOX」には、おかげさまでたくさんの食品が集まっています。世界全体で問題になっている食品ロス問題。日本でも毎日1人あたりごはん茶碗1杯分の食べ物を捨てているという試算も出ています。捨てる前にちょっと思い出してください。それらは必要とする方々へお渡しできる物かもしれません。

お返し物、頂き物等で使わない物、食べない物等がありましたら引き続きもったいないBOXへの投入をよろしくお願い致します。



玄関入ると真正面です

常温保存で賞味期限1か月程度ある物

- ・穀物(米、うどん、そば、スパゲティ等)
- ・保存食品(缶詰、瓶詰、アルファ米等)
- ・インスタント食品(即席ラーメン、カップ麺)
- ・レトルト食品(カレールー、シチュー等)
- ・調味料(醤油、ソース、麺つゆ、食用油等)
- ・飲料(ジュース、コーヒー、紅茶等)
- ・お菓子類(せんべい、クッキー等)
- ・その他(ふりかけ、お茶漬、のり、ギフトパック等)

今年も 乃木清水清掃を行いました

〔本会・郷づくり部会〕

那須塩原市では、那須野が原の豊かな自然や湧水・疏水・開拓にまつわる史跡・伝統文化等を「屋根のない博物館」と考え、田園空間博物館として整備しています。大山地区は、開拓の大きな力となった大山巖や乃木將軍で知られる乃木希典に因む史跡等が、田園空間博物館のサテライト（展示物）として保存されています。

本コミュニティでは、サテライトの一つである「乃木清水」の清掃活動を毎年行っています。今年は7月18日(日)：32名のコミュニティ本会役員、郷づくり部会員の皆さんが早朝6時から参加し、木道等散策路と清水の水路を新型コロナウイルスの感染に注意しながら、清掃、ゴミ拾いなどを行いました。清らかな流れで心が洗われます。是非お出掛けください。なお、8月29日(日)の第2回乃木清水清掃活動は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令されたため中止とさせていただきます。



乃木清水の番人がこんなに増えました



清掃作業のようす

グラウンドの除草作業を行いました



大山コミュニティでは、地域の皆さんのお力添えをいただきグラウンドの除草作業を定期的に行っています。第1回目の作業を7月24日(土)に行いました。

今回は下永田・二つ室の2地区の皆さまにご協力を頂きました。

なお、9月18日(土)のグラウンド除草作業(2回目)は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令されたため中止とさせていただきます。

〔本会事業〕



除草作業のようす



大山コミュニティの規模の大きな事業紹介で、前回の「コミュニティまつり」に続いて、今回は「どんどん焼き」の進め方を紹介します。

地域の行事として定着している「どんどん焼き」についても実施に当たって、多くの方々のご支援ご協力を頂いております。そのご苦勞に感謝すると同時に、皆様に知って頂こうと思いで紹介します。



大山地区のどんどん焼きは、子どもたちにもご協力を頂いている関係で、1月14日に近い金曜日に実施することとしています。

当日は、式典に始まり、大山小児童の作文朗読、乃木神社宮司によるお祓いと厄年者清祓い、点火、ガラまきなどが実施されます。

準備として、次の様な作業があります。

- ①1か月前から、カヤ刈りと、竹とみずの木の切出しを行い、材料を確保します。
- ②1月上旬に、西小屋の骨組みをつくり、
- ③その翌日に、乾燥したカヤを取り付けて高さ7mの西小屋を完成させます。この翌日から当日まで松飾りなど受け付けています。
- ④当日の日中、団子をつくり、みずの木に刺した「繭玉」を1,000本程度作ります。これらの準備は、育成会・PTAの方々にご協力を頂いて実施しております。
- ⑤また、大山小学校の6年生児童には、郷土の行事を学び地域の大人と交流する観点で「繭玉」と「ドラム缶焚き木」づくりに参加協力を頂いております。
- ⑥さらに、より楽しんで頂くため、甘酒配り、うどん販売、駐車場交通整理なども実施しており、各部会の方々にもご尽力頂いております。
- ⑦一方で、火災監視と消火には下永田消防団に、
- ⑧翌日の後片付けには、有志の方々に、それぞれご協力頂いております。

なお、カヤは渡辺様、竹は郡司様、みずの木は下永田自治会にご協力を頂いております。

この様に、多くの方々のご協力ご尽力によって、例年1,200名ほどの皆様にご来場頂き楽しんでおります。そしてこれらは、地域行事の継承と、地域の活性化や交流・絆づくりに役立っているのではないのでしょうか。

以上、大山コミュニティの活動内容について紹介しました。次回は、まとめとしての内容とさせていただきます。

ご意見・ご指導・ご質問は、お気軽に大山公民館にお寄せください。

(運営委員会副会長 勇 茂和)

どんどん焼きまめ知識

正月三が日を「大正月(おおしょうがつ)」というのに対して、1月15日を中心とした3日間を「小正月(こしょうがつ)」といい、悪疫・厄神の侵入を防ぎ、五穀豊穡、子授けを祈るなど、様々な行事が行われています。

どんどん焼きは、小正月の代表的な行事の一つであり、全国的には左義長(さぎちょう)とも呼ばれています。

竹、もみの木、藁(わら)などで仮小屋を作り、子どもたちが、各家庭をまわって集めた正月の松飾りなどを燃やす行事です。

松飾りといっしょに「まゆだま」と呼ばれる団子をもらい、これをその火であぶって食べます。この団子を食べると風邪をひかないといわれています。

県内では、古くは「トリヤキ」、県東地方では「ハーホイ」、日光では「ドーロクジン」などと呼ばれていました。

(とちぎの習慣・ことば集 栃木教育委員会編集・発行 から引用)



繭玉づくり



ドラム缶
焚き木づくり